

第54回上映会 〈 樹木希林さん追悼上映 〉



(C) 東海テレビ放送

2014年／日本／96分／ドキュメンタリー／ブルーレイ上映

2019年6月16日(日)

[上映時間] ①11:30 ②14:30
[講演] 13:10～14:10 講師:プロデューサー 阿武野勝彦さん
[会場] 横浜市社会福祉センターホール

『神宮希林』わたしの神様

旅人は、樹木希林。

「自分の身を始末していく感覚で毎日を過ごしている」。

本作は、そう語る希林さんの人生はじめての「お伊勢参りドキュメント」です。

◆ 2013年、伊勢神宮は二十年にいちどの式年遷宮の年。遷宮とはいうなれば、神様のお引越し。神宮や伊勢志摩地方だけでなく、日本中がかかわる大きな「お祭り」でもあります。参宮街道を行き、お白石持行事などの祭事に参加、伊勢神宮の神域をめぐり、広大な神宮林の山に登り、俳句をひねる。女たちが祈る志摩の石神さまも訪ねます。希林さんには会いたいひとがいました。歌人の岡野弘彦さんです。戦争と震災と神宮……。89歳のいまも未来に何かをつたえようとしている岡野さんのお話に、希林さんは何を感じたのでしょうか。ところで、神様ってホントにいるんでしょうか？ いるとしたら、どこに？



(C) 東海テレビ放送

◆ 真新しい檜の香。浄闇につつまれた内宮の遷御。夢とも現実ともつかぬまま深まってゆく、旅。いのちについて、家族について。それからやっぱり、愛について想いをはせる。そんなお伊勢参り。あなたもどうか、ゆるりごいっしょください。

旅人 ❖ 樹木希林

1943年、東京都生まれ。文学座付属演劇研究所、第一期生。70年代に「時間ですよ」「寺内貫太郎一家」など話題のテレビドラマに出演し、その人気を不動のものとする。その後も独特な雰囲気を持つ個性派女優として幅広い分野で活躍。近年では映画『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』(07)で第31回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞、是枝裕和監督『歩いても 歩いても』(08)で第51回ブルーリボン賞助演女優賞、李相日監督『悪人』(10)で第34回日本アカデミー賞最優秀助演女優賞、原田真人監督『わが母の記』(12)で第36回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞など、数多くの映画賞を受賞している。最近の主な映画出演作として、平川雄一郎監督『ツナグ』(12)、是枝裕和監督『そして父になる』(13)などがある。東海テレビでは齊藤潤一監督『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』(13)に奥西タツノ役で出演。

プロデューサー：阿武野 勝彦 / 音楽：村井 秀清 / 音楽プロデューサー：岡田 こずえ /
撮影：中根 芳樹 谷口 たつみ / 音声：福田 健太郎 / TK：須田 麻記子 / 効果：久保田 吉根 /
取材：佐藤 岳史 / 編集：奥田 繁 / 制作協力：ホーボーズ 松永 英隆 船戸 秀生 小林 敬 /
協力：神宮司庁、神社本庁 / 配給協力：東風 / 監督：伏原 健之

☆本日の講演講師☆

阿武野勝彦（あぶの かつひこ）さん プロフィール

1959年生まれ。同志社大学文学部卒業、1981年東海テレビ入社。アナウンサーを経てドキュメンタリー制作。

日本記者クラブ賞(09)、芸術選奨文部科学大臣賞(12)、放送文化基金賞(16)などを受賞。

主なディレクター作品に「村と戦争」(95・放送文化基金賞優秀賞)、「約束～日本一のダムが奪うもの～」(07・地方の時代映像祭グランプリ)など。

プロデュース作品に「とうちゃんはエジソン」(03・ギャラクシー大賞)、「裁のお弁当」(07・同大賞)、「光と影～光市母子殺害事件 弁護団の300日～」(08・日本民間放送連盟賞最優秀賞)など。

劇場公開作は『平成ジレンマ』(10)、『死刑弁護人』(12)、『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』(12)、『ホームレス理事長 退学球児再生計画』(13)、『神宮希林 わたしの神様』(14)、『ヤクザと憲法』(15)、『人生フルーツ』(16)でプロデューサー、『青空どろぼう』(10)、『長良川ド根性』(12)で共同監督を務める。

☆ 音楽：村井 秀清さん

作曲家、ピアニスト。東京生まれ、横浜育ち。大学卒業後、バークリー音楽院に留学、93年帰国。帰国後ピアノ・キーボード奏者として活動を開始。海外アーティストとの共演も多数。J-Jazzシーンの次世代を担う、人気アーティストの一人。また、作曲家としてもTV・映画・CMなどで活躍。TV『世界ふれあい街歩き』やアニメーション『ねらわれた学園』『銀の匙Silver Spoon』などの音楽も手がけ、注目を集めている。2013年6月には3作目のソロ・アルバム『Step Forward』をリリースするなど精力的に活動を続けている。東海テレビ作品は『平成ジレンマ』(10)、「母の絵日記」(10)、『死刑弁護人』(11)、「四季 純情の里」(12)、『ホームレス理事長 退学球児再生計画』(14)に続いて6作目。

☆ 監督：伏原 健之さん

1968年名古屋生まれ。立教大学法学部卒業、93年東海テレビ入社。営業局で営業マンを経た後、制作局で情報番組などのディレクターやプロデューサーを経験。報道部では県警キャップなどを担当。

主なドキュメンタリー作品は「とうちゃんはエジソン」(03・ギャラクシー大賞)、「福祉番長！」(10・ゆふいん文化・記録映画祭松川賞観客賞)、「オヤジ和尚」(05)、「森といのちの響き～お伊勢さんとモアイの島～」(08)。

(公式ホームページより)

2018年12月24日 第52回上映会「孤獨の人」アンケート結果

来場者数：165 アンケート回収数：45枚 回答率：27.3%

作品についての評価

● とても良かった	19枚	42.2%	● 良くなかった	1枚	2.2%
● 良かった	20枚	44.4%	● 無印	4枚	8.9%
● あまり良くなかった	1枚	2.2%			

〈感想〉

●こんなに空席があるとは思わなかった！「平成最後の天皇誕生日の翌日」「津川雅彦追悼」「原作者はジャニーズ事務所の女帝と言われる方の夫」など、観客が押し寄せる要素がいくつもあるのに、空いているのでショックでした。映画は「さわやかな青春映画」という感じで「ローマの休日」に通じるものがありました。よい意味で予想と外れました。

●ミッション・スクールで教育を受けました。シスターの1人は美智子様と大学が同窓で、図書館にはこの本があり、高校の頃の必読書でしたが、全く内容はおぼえてません。今回この作品を観てなつかしい役者が多くでていて、思わず拍手しました。・・・女性のアクセサリ、衣装もステキで、言葉使いの美しさも見事でした。T.V.放送して多くの人にみてもらいたい作品です。(津川雅彦追悼作とかで。。)

(良かった)

●皇室関係者と同級生になってしまうと色々な意味で大変なん

シンポジウムについての評価

● とても良かった	19枚	42.2%	● 良くなかった	0枚	0.0%
● 良かった	14枚	31.1%	● 無印	10枚	22.2%
● あまり良くなかった	2枚	4.4%			

〈感想〉

(とても良かった)

●学習院では、ロケでもなかった話、学習院の学生だった三谷代が映画に出たことによって退学になった話、三谷代とはすみ代の秘話等よかったです。三谷代の運命を変えた作品、孤独のひととのまとめ！質問コーナー、中々面白かったです。

●三谷礼二さんを紹介、コメントに感謝(小生は、三谷達実さんの後輩です。)今渋谷シネマヴェーラで達実さんセレクトを上映中で因縁を感じます。

●上から目線(どうだ、オレは知ってるぞ)ではなく誠実な話し方がよかったです。

(良かった)

●日活の映画、青春時代よく見ました。今でも裕次郎の歌は

(とても良かった)

だと思いました。学習院や目白駅、今ではまったくおもむきが変わってしまいましたが、独特のふんいきがたまらなく良かったです。貴重な作品をみる事が出来、良かったです。実際には成けい大。

●平成の？代も丁度終わる時、昨日は天皇誕生日でした。感慨深いものがあります。

●限りなくC(あまり良くなかった)に近いが、映画製作としての制約があったことを考えると、よく出来ているということだと思います。

●当時の風俗が分かった。映画がジャーナリズムだった頃の作品だと思った。よく映画になった、あるいは映画化したと思う。

(良くなかった)

●やはりズレている。話題性で取り上げは個人的には感謝しています。(封切時観たが、2～3シーン以外全く忘れていました！)

CD沢山持っています。91回地球一周の旅でピースポートで音楽かんしょう企画しました。

●一般的に知られていないエピソードも聞くことができよかったです。

●いろんな背景が理解できて、楽しい勉強会のような感じでした。蓮見重彦の映画評は読みにくくて大変ですが、マイナーな監督の作品を多く評価していて、はずせない方です。鈴木清順の話聞いて納得しました。スゴイ！！

(その他)

●高崎俊夫氏のお話大変興味深く伺いました。講演後の質疑の時に「銀座の場面はロケで撮った」と1週間前に「小林旭コンサート」で聞いたばかりだったので一言報告させていただき

ました。12/17に関内ホールコンサートの小林旭はこの映画は自分の転機になった作品である、と「孤獨の人」について、かなり詳しく話していました。また、「僕は横浜が大好きでロケで来たり裕ちゃんと飲みに来たり、第二の故郷と思うくらい横浜に特別な想いを持っています」と語っていました。小林旭は、この映画の上映を知らなかったのでしょうか。彼が「来週この横浜でこの『孤獨の人』の上映があります」と舞台上で話していたら、関内大ホールの満員の観客がこちらに押し寄せたことでしょうか。残

念！ それでも、何十年間の悲願であった映画を観て、おもしろいお話を聞いて、おまけに十数年ご無沙汰していた????さんともお会いして(帰りに黄金町の喫茶店でおしゃべりしました)すばらしいクリスマス・イブでした。ありがとうございました。

- 映画で帰る。
- 母が高齢の為、映画だけで失礼しました。
- 私用ができて帰らせていただきました

<<< キネマ倶楽部のページ >>>>

2019年 第54回 全国映連総会 報告

横浜キネマ倶楽部 運営委員 岡田明紀

去る、2019年4月13日(土)に岩波シネサロン(岩波ビル9階)にて全国映連の総会が開催されました。

全国映連(略称)とは、「映画鑑賞団体全国連絡会議」といい、映画を愛好し、日本映画がすぐれた文化・芸術として発展していくことをねがって活動する映画鑑賞団体の全国連絡組織です。

横浜キネマ倶楽部は、2009年から全国映連の加盟組織になっております。今回、横浜キネマ倶楽部からは私を含め3名が総会に出席しました。

現在の全国映連には、全国31の上映団体が加盟しております。

当日の総会は以下の日程で議事が行われました。

- 13時30分 開会(開会の挨拶)／議長選出
- 13時40分 情勢・総会／方針案提案／財政報告・監査報告
- 14時10分 議案検討
- 16時30分 討論まとめ／予算案／新役員提案
- 17時00分 配給会社来賓の挨拶
- 18時00分 全国映連賞贈呈式・受賞パーティー
- 19時15分 閉会(閉会の挨拶)

総会では、以下の議事についての討論がありました。

2018年の総括

1. 2018年映画界の情勢 (高畑勲、橋本忍、樹木希林、加藤剛、ミロス・フォアマン、ベルナルド・ベルトルッチ)
2. 2018年の作品について
 - (1) 日本映画
 - (2) 外国映画
 - (3) 2018年に亡くなられた映画人への追悼
3. この1年の社会と政治をめぐる情勢
 - (1) 世界の動き
 - (2) 国内の政治状況

2018年の活動報告

1. 全国映連の取り組み

- (1) 定期総会・全国映連賞贈呈式(2018年4月7日開催)
- (2) 映画大学 inTOKYO(2018年7月14日～16日開催)
- (3) 高知フェスティバル(2018年10月13日～14日開催)
- (4) 評論賞(8組織から10編の応募)
- (5) 全国映連誌(年6回発行)
- (6) 各地の上映取り組み
- (7) その他(代表委員であった岡本健一さんが2018年9月に逝去)

2. 加盟組織の動向

3. 2019年の取り組み

- (1) 全国映連行事の成功をめざして
- (2) 各組織・地域間の連携を
- (3) 例会プラス企画の充実
- (4) 活動を長年続けてきたこと、続けていくこと

各項目についてはそれぞれの上映団体から報告がありましたが、紙面の関係で今回は割愛します。
横浜は、近年閉館した劇場もありますが、シネコン、単館系の劇場もあり、東京にも近いことから、地方よりも作品の鑑賞環境が良いことを実感しましたが、公開本数の多さに加えネット配信サービスの映画の参入もあり、鑑賞する作品の選択が益々難しくなってくると感じました。

2018年度 全国映連賞は以下の通りです。

【作品賞】日本映画「万引き家族」、外国映画「ボヘミアン・ラプソディ」

【監督賞】是枝裕和「万引き家族」、三上智恵★・大矢英代「沖縄スパイ戦史」

【男優賞】山崎 努★『モリのいる場所』、池松壮亮『斬、』

【女優賞】安藤サクラ★「万引き家族」、木竜麻生「菊とギロチン」「鈴木家の嘘」

【特別賞】信友直子★「ぼけますから、よろしくお願ひします」監督、『カメラを止めるな!』(上田慎一郎監督、スタッフ、キャスト)

★は受賞パーティーに出席されて受賞者の方です。山崎努さんと安藤サクラさんを間近で見ることができました。

2018年度全国映連ベストテン

【日本映画】

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1位「万引き家族」◎ | 6位「妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ」 |
| 2位「日は好日」 | 7位「沖縄スパイ戦史」 |
| 3位「カメラを止めるな!」◎ | 8位「空飛ぶタイヤ」 |
| 4位「焼肉ドラゴン」 | 9位「教誨師」 |
| 5位「モリのいる場所」 | 10位「寝ても覚めても」 |

【外国映画】

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1位「ボヘミアン・ラプソディ」◎ | 6位「1987、ある闘いの真実」 |
| 2位「タクシー運転手 約束は海を越えて」 | 7位「華氏 119」 |
| 3位「グレイテスト・ショーマン」◎ | 8位「判決、ふたつの希望」 |
| 4位「スリー・ビルボード」 | 9位「シェイプ・オブ・ウォーター」 |
| 5位「ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書」 | 10位「否定と肯定」 |

【日本映画】2018年度 興収トップテン

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1位「劇場版コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」
92.3億円 | 3位「映画ドラえもん のび太の宝島」53.7億円 |
| 2位「名探偵コナン ゼロの執行人」91.8億円 | 4位「万引き家族」45.3億円◎ |
| | 5位「銀魂2 掟は破るためにこそある」36.5億円 |

- 6位「DESTINY 鎌倉ものがたり」32.1億円
- 7位「カメラを止めるな！」31.2億円◎
- 8位「劇場版ポケットモンスター みんなの物語」30.9億円

- 9位「検察側の罪人」29億円
- 10位「未来のミライ」28.8億円

【外国映画】2018年度 興収トップテン

- 1位「ジュラシック・ワールド 炎の王国」80.7億円
- 2位「スター・ウォーズ 最後のジェダイ」75億円
- 3位「ボヘミアン・ラプソディ」70億円◎
- 4位「グレイテスト・ショーマン」52億円◎
- 5位「リメンバー・ミー」50億円

- 6位「インクレディブル・ファミリー」49億円
- 7位「ミッション:インポッシブル フォールアウト」47.2億円
- 8位「アベンジャーズ インフィニティ・ウォー」37.3億円
- 9位「ボス・ベイビー」34.4億円
- 10位「レディ・プレイヤー1」25.5億円

○ベストテンと興収トップテンを比べて共にランクインしていた作品は、日本映画で「万引き家族」と「カメラを止めるな！」 外国映画で「ボヘミアン・ラプソディ」と「グレイテスト・ショーマン」でした。上記の4本は、人気・評価ともに好評と理解してよい作品かもしれません。特に「カメラを止めるな！」と「ボヘミアン・ラプソディ」は 2018 年を象徴する作品になったことは間違いないと思いました。

○2018年の映画公開本数は、日本映画が613本、外国映画が579本、合計で1192本でした。つまり毎日、3本ずつ映画を観ても、1095本なので、それでも全て観ることができないほどの本数が公開されました。週換算で毎週末23本の新作映画が公開されている計算になります。完全に需要過多の状況のようです。

○日本映画の興収1位は、「劇場版コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」でしたが、映画ファンはあまり鑑賞していない作品のようです。因みに私は未見です。

2019年度 全国映連 加盟組織 31 団体

No. 都道府県 団体名

01 北海道 函館映画鑑賞協会	12 大阪 花園映画サークル	23 愛媛 今治映画鑑賞会
02 北海道 滝川映画サークル	ポチョムキン	24 岡山 岡山映画鑑賞会
03 北海道 札幌映画サークル	13 京都 京都映画サークル協議会	25 島根 松江キネマ倶楽部
04 山形 鶴岡生協映画委員会	14 奈良 奈良シネマクラブ	26 広島 広島映画サークル協議会
05 東京 シネマニア	15 兵庫 神戸映画サークル協議会	27 広島 福山映画サークル
06 東京 エイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)	16 兵庫 姫路シネマクラブ	28 広島 呉映画サークル
07 神奈川 横浜キネマ倶楽部	17 兵庫 加古川シネマクラブ	29 福岡 北九州映画サークル協議会
08 神奈川 茅ヶ崎良い映画を観る会	18 兵庫 明石シネマクラブ	30 福岡 福岡映画サークル協議会
09 静岡 清水映画サークル協議会	19 徳島 徳島でみればよい映画をみる会	31 熊本 人吉くま映画文化協会
10 新潟 上越映画鑑賞会	20 徳島 あなんで映画をみよう会	
11 愛知 あいち平和映画祭	21 高知 とさりゆう・ピクチャーズ	
	22 愛媛 マネキネマ	

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

・・・第56回上映会お知らせ・・・

2019年10月22日(火・祝)「**寿トヤ街 生きる2**」

上映時間：①11:30～ ②14:30～

講演：13:10～14:10 渡辺孝明監督

入場料：前売 1,000円・当日 1,300円・障がい者 1,000円(介助者1名無料)

会場：かながわ労働プラザ3階多目的ホール 045-633-5413(中区・JR石川町下車)

次回第55回上映会お知らせ

「ヨコハマアートサイト2019」に応募し、採択されました！

「1981・寿や街 生きる」

上映時間 ① 11:30 ~

② 14:30 ~

講演：13:10 ~ 14:10

渡辺孝明監督「寿地区について思うこと」

〔入場料〕

前売 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

〔会場〕 かながわ労働プラザ

3階多目的ホール 045-633-5413
(中区・JR石川町下車)



・・・第56回上映会お知らせ・・・

2019年10月22日(火・祝)「寿や街 生きる2」(裏面P7)

・・・「ヨコハマアートサイト」とは・・・

地域課題にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援(助成広報協力等)する事業です。

2019年、アートで地域を、29件の文化芸術活動が決定!

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部



〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56
横浜市民活動支援センター No.85
横浜キネマ倶楽部

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール: yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス: <http://ykc.jimdo.com>

<2019年3月2日 第53回上映会「喜劇 大風呂敷」>

来場者数:223 アンケート回収数:65枚 回答率:29.1%

..... アンケート集計結果 1

作品についての評価

● とても良かった	19枚	29.3%
● 良かった	35枚	53.8%
● あまり良くなかった	7枚	10.8%
● 良くなかった	1枚	1.5%
● 無印	3枚	4.6%

感想

(とても良かった)

●ストーリーが深く、人情が深く、とても見応えがあった。昔の映画はお金も時間もかけてじっくり作っており、楽しめる。

●時代の空気とともに豪華キャストでアナーキーでとても面白かったと思います。

●コメディながら人情のある作品良き昭和の風景でした。歌丸さんの横浜言葉も今となっては良きコマでした。

●昭和40年代大手映画会社のプログラムピクチャー製作配給体制がまだ存在していた時代の雰囲気良く感じられた。

●藤田まことの魅力を改めて感じ良い気持ちになれた。

(良かった)

●喜劇の笑いが大阪的で表面的で中途半端もつとドタバタを2重3重に組み入れても良かった。深い笑いが不十分と思った。台風でロープをかけまちがえて家がこわれてしまう方が笑いの追求としては良い展開にできたのではないかと思った。

●中学生の頃の映画で車が時代を感じさせた。今は亡き俳優の姿は懐かしい。

●昭和の喜劇は社長シリーズくらいしか観たことがなかったが少々テイストがちがっていて興味深かった。

●芦川いづみさんがキレイだった。あと、GSのアウトキャストが出ていてビックリ。

●桂歌丸さんが出てる場面が少なすぎた。

●懐かしい方々の顔を見れたこと、母も喜んでいました。終わり方がちょっと・・・。

●懐かしいメンバーが出演し、当時は思い出した。

(あまり良くなかった)

●純粋に映画の内容がどうと言う喜劇だとしても主人公の大野馬六には共感ができず楽しめないところがあった。

●桂歌丸追悼作品として主演映画ではないとのことだがもっと出番があるものを観たかった。ベトナム戦争のばからしさをコメディとして写した手腕はさすが中平康。藤田まことのコメディ大げさなところがきれいなので。

(良くなかった)

●ギャグが古臭くて賞味期限切れの喜劇を観せられてる感じがした。藤田まことの映画は「日本の青春」が一番良かった。

(その他)

●自分の体調がいまいちだったせいかな？期待しては程ではなく爆笑というかんじではなかったです。たださすがに藤田まこと、花沢徳衛さんは存在感があり、歌丸さんも熱演していました。ギャグをふんだんにとりいれていましたが、筋としてはもり上がりかもうひとつというところでした。この映画は、講師の方が、佐藤さんのお話、42年といっていました丁度私が高校卒業した年代でした。ああ、あの頃できたのかとその時代背景を思い感慨深いものがありました。

<2019年3月2日 第53回上映会「喜劇 大風呂敷」>

来場者数:223 アンケート回収数:65枚 回答率:29.1%

..... アンケート集計結果 2

講演会についての評価

● とても良かった	24枚	36.9%
● 良かった	24枚	36.9%
● あまり良くなかった	0枚	0.0%
● 良くなかった	0枚	0.0%
● 無印	17枚	26.2%

感想

(とても良かった)

●片岡千恵蔵の若いきれいな顔、おどろきました。充実感あった。金語楼にもあえてうれしい。歌丸の落語もきけた。

●佐藤さんのお話を聴くために来ましたが、ずっと聴いていたい楽しさです。

●貴重な映像とお話ありがとうございました。

●古い映像をたくさん見ることができてとても良かったです。解説もとても楽しかったです。

●古すぎて知らない俳優の名もたくさん出たが懐かしい名が聞けて良かった。

●良くまとまった話でおもしろかった。歌丸さんの思いつきは特に良かった。

●「笑点」が「氷点」のもじりとわかった。非常に懐かしい貴重な映像の数々ですばらしい。

●「幕末太陽傳」が突発的に出てきた作品ということが(落語映画の流れの中で)佐藤先生の話でよく理解できた。

●落語と映画の関係について知らないことが沢山あり興味深い話でした。

●映画の他に横浜の歴史も知れ良かったです。新元号のこれからも語り続けてほしいです。

●すみません。今日の映画よりおもしろかったです。良かったアー！！落語映画などあったのは、私が小学生時代だったので、金語楼さん(テレビでみました)、榎健さん(うたでなじみ)、古川緑波さんなどは知っていましたが、その方たちの映画には結びつきませんでした。映像や年表、歴史、歌声など知り得なかったこと情報をきかせ見せて下さり、貴重な時間でありました。

●分かりやすく、とても面白かった。映画の保存、上映にたいしての意識も高まったかも。

(良かった)

● 時間不足で残念。

●いろんな落語映画を見たくなった。歌丸さんの事が分かって良かった。三尺左五平も見たいです。

●ラジオでは聞いていましたが、直接本人のお話を聞いてとても良かったです。佐藤さんの博識に感激しました。

●自分の生まれる前、生まれたころの映画、落語、芸能の話は、自分にはピンとこなかったが、講演内容はすばらしいものだった。非常に詳しい方で楽しい講演でした。

●スクリーンでみる落語名人の貴重な姿に大笑いした。落語映画の移り変わりを「落語長屋シリーズ」「幕末太陽伝」「大江戸千両囃子」「大笑い江戸っ子囃子」「落語天国紳士録」「運がよけりゃ」「羽織の大将」「おかしな奴」「色ごと師春団治」「落語野郎シリーズ」

●横浜の歴史のことも語ってくれて、おもしろかったです。

(その他)

●参加しませんでした。

●風邪気味の為、参加できず申し訳ありませんでした。